

■馬場伸幸代表の過去の主な発言

・選挙は非常に厳しい戦い。女性の優先権を設けることは、我が党としては全く考えていない。私自身も1年365日24時間、常に選挙を考えて政治活動をしている。それを受け入れて実行できる女性はかなり少ない。(3月28日、記者会見で)

・月刊誌のインタビューで申し上げた。「立憲民主党をたたきつぶす」と。後半国会でとにかく遅延工作をするという先祖返りを起こしているわけ、本当に国民のためにこの方がいるのかなというのが私の感想。(6月7日、党役員会で)

・(米国の)トランプ前大統領は、既存の規制や政策をスクラップ(破棄)しなければ、新しいものは認めないという方針。政策の方向性としては、(バイデン大統領よりも)トランプ前大統領の方が維新の考え方には近い。(7月20日、記者会見で)



日本維新の会の
馬場伸幸代表

「維新は第2自民でいい」 馬場代表「共産なくなつていい」

「まだ、「立憲民主党がいても日本はよくならない」「共産党はなくなつたらいい」と持論を展開し、両党が批判している。

23日放送の「ABEMA

日本維新の会の馬場伸幸代表の発言が波紋を呼んでいる。馬場氏は23日のネット番組で、自民と維新の関係について「第一自民党と第2自民党でいい」と語った。それと馬場氏は、「第

不健全（ひきぞれい）」の発言を受け、「第1自民党と第2自民党でいい」と語った。

1、第2自民党が改革合戦で沉没し、改革をやつし、國家富強のためになる」と

演じた際の発言。共演者の「立憲からすれば、維新は第2自民党のよくな存在。自民と戦うのは自分たちで、第2自民党が戦うのは

やつとも日本はなんにもよくならない」と続け、立憲との関係改善は「未来永劫ない。やめかねるか」と語った。また、共産についても言及。「日本にいたりもするがいい政党」として、「金くやね派がなく自民党をサポートする」といふべきだ。されば、(選舉)協力は「ほんのがない」と述べた。

一方、「共産なり直接の抗議がない」として、現時既に「立憲の余風で、「他の党の政策について批判する権利を回す者はない」とし

24日の余風で、「他の党の政策について批判する権利はどの党にもある。しか

じ、「党名を『第2自民』のままにして根本から否定する論議」と述べ、発言の撤回を求めた。

馬場氏は24日、朝日新聞の取材に「個人の見解という前提での発言」と説明。一方、「共産なり直接の抗議がない」として、現時既に「立憲の余風で、「他の党の政策について批判する権利を回す者はない」とし

た。(山崎聰、羽原和紀)

立憲・共産反論

1、第2自民党が改革合戦で沉没し、改革をやつし、国家富強のためになる」と

いうした馬場氏の発言に、立憲と共産はやぐらに反論した。立憲の泉健太代表は23日、高知市内で取材に応

7/25(木)

「他党支持の有権者も否定」

つてはいる」と、憤りてしまつてはいけない。有権者は厳しく受け止め、（選挙時に）判断するだろ。

一方で馬場氏は米国のトランプ前大統領のようにわざと強い言葉を使ってメディアの関心を取ることとしているのではないか。発言を冷静に見る必要がある。

「第2自由党でいい」との発言は保守の二大政党制を目指すところの宣言だ。リベラルを排除し保守のみとなると有権者にとって選択肢がなくなる。より多様な意見、少数者の声をどのように取るかが今後の課題だ。

法政大大学院の田嶋浩教授（現代政治分析）の話
考えの違う他党の意見も尊重するのが民主主義のあるのだ。「また維新が何か言